2024年12月14日

紙相撲新聞

第163回本場所
十日目～千秋楽号

編集・発行
日本紙相撲協会

西神門 大逆転

千代対若嶋、横綱頂上決戦の流れの中
最後の二番で賜杯は大関西神門の手に

【第百六十三回本場所十日～千秋楽】

今年最後となる第１６３回本場所千秋楽が１２月１４日に開催され、横綱千代鈴、横綱若ノ嶋、大関西神門が９勝２敗で並び、三つ巴の優勝決定戦の末、西神門が両横綱に連勝して２度目の優勝を飾った。

三賞は３横綱に勝った綱乃花が初受賞、技能賞は夢ノ花（２回目）と綱乃花（２回目）、敢闘賞は該当者なしとなった。

↑　優勝決定戦、巴戦の三戦目千代鈴と西神門の同部屋決戦は、錦風親方の「もう一丁」の願いも虚しく西神門が制して２度目の優勝を飾った。

↓　巴戦二戦目、若ノ嶋が勝てば今場所の優勝となるところだったが、合口の悪い大関を押し切ることはできずに涙を飲んだ。

九日目を終えた時点で、横綱千代鈴と横綱若ノ嶋が１敗で優勝争いの先頭に立ち、これを大関西神門と前頭十一枚目の出羽翼が２敗で追う展開となって優勝はこの４力士に絞られていた。

迎えた十日目の千代鈴は横綱春ノ翔との横綱同士の対戦。過去は千代鈴の２勝５敗と分の悪い相手。

千代鈴が春ノ翔を正面土俵に追い詰めるも、春ノ翔にうまく回り込まれ左を差される展開に。万事休すと思われたが、千代鈴が粘りを見せて引き落とすと、春ノ翔がばったり土俵につき九死に一生を得た。

春ノ翔●（引き落し）○千代鈴

若ノ嶋は大関西神門との対戦。過去は若ノ嶋の２敗と本場所ではまだ勝てていない相手。「稽古でも西神門には勝てないんだよなぁ。」と錦風親方。稽古場でも左を差されたり、のど輪で倒されるなど、なかなか勝機が見いだせない相手。

しかし、今場所は初日から８連勝を飾り優勝を目指しているだけに是非でも勝たなければならなかったが、西神門にのど輪で体を起こされた後、左を差されて寄り切られる完敗で痛い２敗目を喫した。

若ノ嶋●（寄り切り）○西神門

唯一平幕力士で優勝争いに残る出羽翼は、３横綱を破り殊勲賞が確実に寄り切られて３敗となって優勝争いから脱落した。

出羽翼●（寄り切り）○綱乃花

これにより十日目を終えて、千代鈴が１敗を守って優勝争いの単独トップに立ち、これを若ノ嶋と西神門が２敗で追う展開となった。

優勝	西神門	九勝二敗	（２）
殊勲賞	綱乃花	七勝四敗	（初）
技能賞	夢ノ花	六勝五敗	（２）
〃	綱乃花	七勝四敗	（２）
十両	西の富士	十勝一敗	（初）
幕下	虎麒麟	五勝	（初）
三段目	石神	五勝	（初）
序二段	逆本	五勝	（初）
序の口	諏訪	四勝一敗	（初）

そして、迎えた千秋楽は三役揃踏みの後、最初に西神門が土俵に上がる。対戦相手は昨日、綱乃花に敗れて惜しくも優勝争いから脱落した出羽翼。

結びの一番で、千代鈴が若ノ嶋に敗れれば２敗での三つ巴の決定戦となるだけに、この一番に勝ってその権利を得ておきたい。一方の出羽翼も勝てば８勝で敢闘賞との声が上がっていて、再び三役を目指すきっかけにしたいところ。

勝負は出羽翼がのど輪で攻めるも逆にこれを西神門が押し返して押し出して２敗を守った。

西神門○（押し出し）●出羽翼

支度部屋に引き上げ、決定戦に備えて髷を整える西神門が見上げるモニターには結びの一番の両横綱が土俵に上がる姿が映し出された。東から千代鈴、西から若ノ嶋が土俵に上がり、立行司木村章之助が「この一番にて千秋楽」との結びの触れ。

千代鈴が勝てば、６回目の優勝が決まる。若ノ嶋が勝てば、三つ巴の優勝決定戦にもつれ込む。

「若ノ嶋が優勝するためには千代に勝って決定戦で千代と西神門に勝たなければならず、かなりハードルが高いけどね」と鹿賀乃戸親方。しかし、今場所８連勝で見事に復活をみせた若ノ嶋だけに、このまま負けてあっさり優勝を逸するわけには行かない。

関西から本場所初観戦に訪れた加古川親方らが見守る中、行司の軍配が返る。

立ち合いは五分だったが、そこから思い切ったのど輪に行く若ノ嶋。そこから「ぐい」とひと突きすると千代鈴が背中から土俵に倒れた。

若ノ嶋○（押し倒し）●千代鈴